

自己紹介

司会:野中 文章(青少年育成部部会員)

八雲住区は平成17年(2005年)12月で20周年を迎えます。そこで、八雲住区並びに住区センター設立にご尽力頂いた皆様に本日お集まり頂き、八雲住区の歴史を振り返ることによって「将来の八雲」を展望したいと思っています。宜しくお願いいたします。それでは、自己紹介からお願いします。

岡田 栄子(住区住民会議会長)

住区設立当初の総会の資料やパンフレットをみせて頂いて、当時のことがよみがえっております。

太田 幸夫(元広報部部会員)

設立準備段階から、住区だよりをまとめるという担当をさせて頂きました。

小杉 貞子(元事務局長)

昭和58年(1983年)八雲小PTA会長をお受けした時から関わらせて頂きました。

小林 雅子(会計)

小杉さんがPTA会長の時、副会長をやらせて頂きまして、それから今日まで関わらせて頂いています。

住友 勇二(前住区住民会議会長)

柿の木坂町会として住区設立に関わりました。その後、初代益戸会長の後をうけて八雲住区の2代目会長をやらせて頂きました。

大坂 義郎(元生活環境部部会長)

当時、宮前町会長から宮前町会の代表として八雲で力を出してくれと言われ、一生懸命お手伝いさせて頂きました。

川村 忠司(前施設運営部部会長)

施設部部会長として、住区センターの設立に関わらせて頂きました。



座談会風景



住区設立までの8年間の道のり

司会 八雲住区は、目黒区で22番目の最後の設立ですが、区から住区設立の提案があった時、町会の反応はいかがでしたか。また、8年間の準備期間を経て、どのように住区設立に至ったのかお聞きしたいのですが。

住友 当初、町会がしっかり活動をしていましたから、町会があるのだから住区はいらないだろうなんて声が多かったですね。そのうち各町会から準備委員を出そうという事になって、各町会対等に委員の数をだそうということになりました。

大坂 八雲町会や柿の木坂町会も東根住区とまたがっていますが、私ども宮前町会もまた、八雲住区と自由が丘住区にまたがっております。当時、既に自由が丘の住区づくりが先に始まっていたので、宮前町会そのものとしては、熱はいりませんでしたね。

司会 八雲住区設立までの8年間をかけて、皆さんを動かしていったものは何だったんですか。

住友 町会での、住区についての話し合いも町会長がいないとまとまらない訳です。当時の町会長は非常に熱心だったが、住区については意見はあるようでした。

小杉 当時、事務局を私一人でやっていました。拠点が無いので会合の場所に苦勞しました。設立までには、各町会に実力者の方が沢山いらしゃいまして、当初は、町会がしっかりしてるのだから住区はいらないという風でしたので苦勞しました。

大坂 そんななかで益戸会長(中根西町会)に、非常に熱心にまとめて頂いたのが助かりました。また、元柿



司会(野中 文章)